

(4) 0.1% 予洗 (予洗 10 分, 0.1% 10 分, 0.1% 10 分) (5) 0.2% 予洗 (予洗 10 分, 0.1% 20 分) 等とし各々の洗い方による優劣を比較した。

結論 以上の結果を推計学的に処理し、凡そ次のような結論を得た。

(1) 水予洗は非常に効果的である。即ち第 1 回目は水で洗うのが最もよく、洗剤溶液を用いる場合は、液が濃厚になるほど予洗の効果を失う。

(2) 2 回目からの洗浄は最適濃度、0.2~0.3% で洗うことにより、洗浄効果をあげることが出来る。

(3) 濃厚洗浴で 1 回洗いするより、最適濃度附近で回数を重ねる方が高い洗浄効果が得られる。

### 39 洗浄作用における予洗及び洗液更新の効果

千葉大学 市原 栄子

目的 昭和 30 年の総会に於て、洗浄に際しての予浸効果が殆ど認められずかえって洗浄性を低下させるに對し、予洗が非常に効果的であることを報告した。今回はこの予洗の効果に着目し、一そう詳細な検討を加えた。即ち、水による予洗だけにとどまらず希薄洗液による予洗の効果、さらには一定量の洗剤を分割して希薄な洗液とする場合の効果などをしらべた。

方法 洗剤濃度 0.1~0.6%, 洗浄時間 30 分, 三回の分割洗いまでを限度とし、その間に考えられる洗い方を系統的にまとめられるよう計画を立てた。具体的な一例をあげれば、洗剤総使用量 0.3% 濃度としたとき (1) 予洗なし (0.3% で 30 分) (2) 水予洗 (予洗 10 分, 0.3% で 20 分) (3) 0.1% 予洗 (予洗 10 分, 0.2% で 20 分)